



ノーリツ 中級価格帯コンロの商品ブランドを「piatto (ピアット)」に刷新

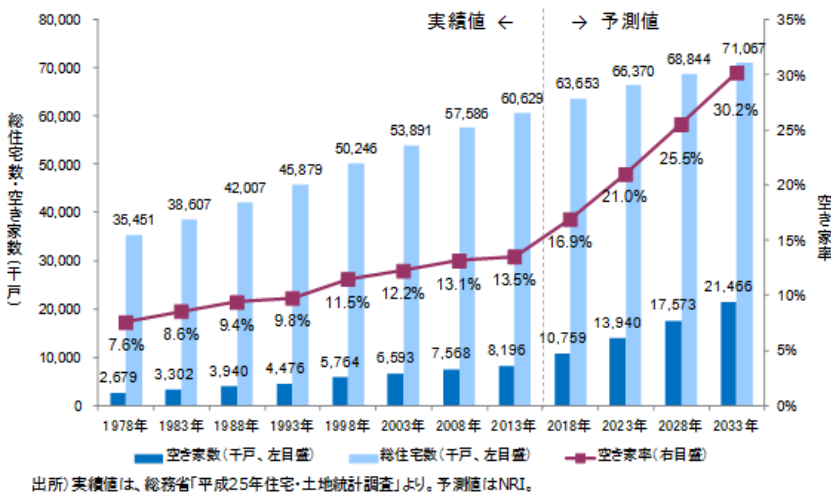


ノーリツは、中級価格帯のガスビルトインコンロ「S-Blink revor (スタイリッシュブリンクレボア)」と「i-SELECT (アイセレクト)」を新ブランド「piatto (ピアット)」に刷新。新商品を9月1日に発売します。piatto (ピアット) では、焼き網タイプのグリルを採用しました。グリルをより活用いただくために、自動で魚などを焼き上げる「オートグリル機能」をさらに進化させ、「連続オートグリル機能」を搭載。従来の温度制御を大幅に見直し、庫内温度が高い状態でも連続してグリルを使用できるようになりました。焼き魚の他にもお惣菜の温めなど、幅広い料理を効率の良いグリルで行いたいというニーズにこたえます。また、デザイン面では、高級価格帯でも人気の凹凸の少ないフラットなフェイスデザインを採用。見た目の美しさに加え清掃性も向上しました。当社のビルトインコンロは、高級価格帯を「PROGRE (プログレ)」、中級価格帯を「piatto (ピアット)」、普及価格帯を「fami (ファミ)」と、大きく三つの商品ブランドでの展開になります。商品のコンセプトをわかりやすく打ち出すことで、商品ブランドの明確化を進めます。

凸の少ないフラットなフェイスデザインを採用。見た目の美しさに加え清掃性も向上しました。当社のビルトインコンロは、高級価格帯を「PROGRE (プログレ)」、中級価格帯を「piatto (ピアット)」、普及価格帯を「fami (ファミ)」と、大きく三つの商品ブランドでの展開になります。商品のコンセプトをわかりやすく打ち出すことで、商品ブランドの明確化を進めます。

情報提供: ノーリツ

住宅の除却・減築などが進まない場合、2033年には空き家が2,000万戸超へと倍増



野村総合研究所(NRI)は、2018年、2023年、2028年および2033年における日本の総住宅数・空き家数・空き家率(総住宅数に占める空き家の割合)を予測しました。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、総世帯数は2020年の5,305万世帯をピークに、2025年には5,244万世帯に減り、その後も減少が見込まれます。空き家率の上昇を抑えるためには、世帯数の減少に応じて、総住宅数も減らしていく必要があります。国土交通省の平成26年度「住宅着工統計」によると、2014年度の新設住宅着工戸数は88万戸で、5年ぶりに減少に転じました。NRIの予測では、2030年度までに新設住宅着工戸数が53万戸に減少すると見込んでいます。しかしながら、新設住宅着

工戸数が減少しても、それを上回るスピードで世帯数の減少が見込まれます。このため、既存住宅の除却や、住宅用途以外への有効活用が進まなければ、2033年の総住宅数は約7,100万戸へと増大し、空き家数は約2,150万戸、空き家率は30.2%にいずれも上昇すると予測されます。これら空き家数、空き家率の予測数字は、いずれも2013年の実績値(約820万戸、13.5%)の2倍以上となり、住環境の悪化や行政コストの増大など、さまざまな問題が生じる可能性があります。このような空き家数・空き家率の増大を抑制するためには、出生率向上をはじめとした人口減少への対策や、活用価値が低下した住宅の除却、中古住宅流通市場の整備、複数戸の住宅を1戸の住宅にリフォームやリノベーションする減築、コンパクトシティの実現などを積極的に進めていく必要があります。さらには、住宅の新築に対して一定の制限をかけるなど、人口減少時代にふさわしい住宅政策を検討していくことも求められます。

情報提供: 野村総合研究所

リンナイの「エコワン」、タンクユニットと熱原機の分離設置が可能に



リンナイは、ヒートポンプユニットとエコジョーズを組み合わせた家庭用ハイブリッド給湯・暖房システム「ECO ONE (エコワン)」(第3代モデル)のラインアップを拡充。タンクユニットとガス給湯器(熱源機)を別々に設置できるセパレートタイプを7月から順次発売する。給湯一次エネルギー効率は業界最高レベルの138%。今回、セパレートタイプを追加するのは「ハイブリッド給湯・暖房システム」と「ハイブリッドふろ給湯システム」で、これまで一体型では設置が難しかった狭小地に対応する。また、ガス給湯器の取り替え時に既存の配管を活かして設置することもできる。

情報提供: 新建ハウジング